

## 第13回日韓中三カ国環境研究機関長会合 共同声明(仮訳)

### I. はじめに

1. 中国環境科学研究院(CRAES)、国立環境研究所(NIES)及び韓国国立環境科学院(NIER)による日韓中三カ国環境研究機関長会合(TPM)は、北東アジアのより良い環境のための環境研究に関する3機関における成果について情報・経験の交流及び研究協力を目的に、2004年に開始された。

2. 第13回TPM(TPM13)は、CRAESが主催して、中国雲南省昆明市において、2016年10月31日～11月4日に開催された。NIES代表団(団長:住明正理事長)及びNIER代表団(団長:朴辰遠院長)は、宋永会CRAES副院長(新任の李海生CRAES院長の代理)の招待を受け、会合に参加した。

### II. 3カ国における環境分野及び科学技術の最近の動き

3. 開会セッションにおいて、3機関長は、TPM12以降の各国における環境分野及び科学技術の最近の動きについて情報交換した。

4. 宋副院長は次のように述べた。日韓の代表団を歓迎する。TPMの重点研究分野(PRA)における活動を全面的に支持する。TPMラウンド(12年間)の2巡目の初回となるTPM13に際し、TPMの経過をレビューし、成果を総括し、現状を評価し、将来の冒険的試みを明らかにするべきである。将来のTPMメカニズムにおいては、3機関は、1)共同研究分野の拡大、総合化を継続し、2)環境基準の分野における綿密な協力を強化し、3)3ヶ国の研究者間の技術交流を促進することに加え、アジアという広い視野を持ち、地球環境の”重大な課題”を明確にし、4)ひいては環境研究・環境保全分野の指導者となるよう研究の質を向上するために協力すべきである。PRAに重点的に取り組むことに加え、更なる3機関間の交流と革新のために技術産業界と協力する必要がある。

5. 住理事長は、温室効果ガス観測技術衛星(GOSAT)や子どもの健康と環境に関する全国調査(JECS)、新設の気候変動戦略連携オフィス及び社会対話・協働推進オフィスに言及しつつ、今後5年間のNIESの戦略のキーワード「繋ぐ・束ねる・結ぶ・引っ張る」を強調し、2016年4月から開始されたNIESの第4期中長期計画の概要について紹介した。また、災害環境研究プログラムの研究拠点として2016年4月に新たに設置した福島支部や今後予定されている地方の環境研究機関との連携についても紹介した。

6. 朴院長は、2015年の実績と2016年の目標である安全・快適な環境の創造、環境と経済の共存、持続可能な社会の実現について紹介した。朴院長は、韓国及び北東アジアの環境問題を提示し、北東アジアでの3機関の役割を責任の重要性を強調した。また、最近の黄砂や粒子状物質による大気汚染の悪化への懸念を表明し、3機関による環境

研究協力の一層の強化を促した。さらに、TPM PRA ロードマップ策定の完了を祝しつつ、ロードマップが3機関による将来の共同研究プロジェクトの改善だけでなく将来世代のために世界的な懸案となっている環境問題の解決に貢献するよう期待を示した。

### Ⅲ. 研究の進捗と重点研究分野(PRA)

7. TPM12 以降の3機関における進展の報告、環境保健とリスク評価に関する3機関による発表、9つの PRA における共同活動の報告が行われた。

8. 3機関長は、9つの PRA の刷新について意見交換した。NIER は、“生物多様性保全”研究は 2013 年に NIER から国立生態院(NIE)へ移っており、当該分野の共同研究を継続できないため、当該研究分野を PRA から除外し、“有害藻類”を新 PRA にするよう提案した。これに対して3機関長は、現在の9つのPRAは優先的に取り組むべき重要な環境研究分野であることを確認した。3機関長は、“生物多様性保全”を PRA として維持し、3機関以外の機関に所属する研究者もこの活動に参画できることを再確認した。3機関長は、PRA は広範な研究分野であることを考慮し、“有害藻類”は PRA “淡水汚染”のサブ PRA と位置づけることで一致した。

9. 3機関長は、近年の3機関間の協力の進展に言及し、PRA は各国における環境研究の優先順位に基づくべきであると強調した。それと同時に、地域及び地球規模の環境問題は考慮しつつも、各 PRA における科学技術の交流を将来更に深化させるべきとの認識を示した。

### Ⅳ. TPM PRA ロードマップの採択及び将来の TPM に関する意見交換

10. 3機関長は、TPM PRA ロードマップ(2015-2019)改訂版を確認し、計画期間中は改訂の余地があることに留意し、改訂版を採択した。

11. 3機関長は、現行の PRA の主担当機関(LCI)は次の通りとすることを確認した。

CRAES: 淡水汚染、都市環境とエコシティ、化学物質リスク管理

NIES: 生物多様性保全、気候変動、災害環境

NIER: アジア大気汚染、砂塵嵐(黄砂)、固形廃棄物管理

12. 住理事長は、環境問題は広範な分野に跨り環境研究への関心と必要性は多岐に亘ること、各機関は独自の使命を持つとともに置かれている立場は国毎に異なること、共同研究は研究者の個人的繋がりに基づくべきであること等を指摘した。その上で住理事長は、“友情、コミュニケーション、協力、win-win”という TPM の原則を踏まえ、PRA において確たる成果を挙げるための方策について、現行の TPM の在り方の変更も含め検討するよう提案した。

13. 3機関長は、TPM は地域の環境保全技術の進展にとって非常に重要であり、3機関は学術研究と環境技術の進歩の両方で“win-win の結果”を実現するよう、各国の状況を踏まえつつ協力を強化すべきと強調した。また、関心を共有する環境問題への取り組みに際しては各々の機関の強みを活かすべきであると指摘した。

#### V. TPM13 国際ワークショップ・雲南省環境科学研究院創立 40 周年記念学術交流セミナー：水質汚染対策技術と生態系の健全性

14. TPM と雲南省環境科学研究院(YIES)は、環境研究の推進と研究の成果を普及するため、「TPM13 国際ワークショップ・雲南省環境科学研究院創立 40 周年記念学術交流セミナー：水質汚染対策技術と生態系の健全性」を 2016 年 11 月 2 日に共催した。会合には、雲南省環境保護部(YEPD)及び YIES の幹部や専門家が参加し、発表を行った。

15. アオコ及び河川流域の水質汚染対策、流域水環境管理と生態系保全、水質基準とリスク評価に関して最新の研究成果の発表と討議が行われた。

16. ワシントン大学環境・労働衛生学部の Sverre Vedal 教授及びモンゴル気象環境監視庁情報・気象水文環境研究所の Ganjuur Sarantuya 所長が”招待され、水質汚染と保健”に関して講演を行った。

#### VI. TPM14

17. 住理事長は、2017 年に仙台市を含む南東北で TPM14 を開催すると提案した。

#### VII. 結び

18. 3機関長は、TPM13 の実りある成果に満足の間意を表すとともに、PRA における共同研究を更に進めることにより、TPM はより推進されることを強調した。これにより、学術交流と研究協力は、次の段階すなわち、北東アジアにおける環境の質の向上と持続可能な発展の推進に関してより重要な役割を果たすことができる。

19. 住理事長と朴院長は、TPM13 の成功に向けた積極的な貢献と参加者全員に対する温かい歓迎について、CRAES、YEPD 及び YIES への謝意を表明した。

宋 永会 中国環境科学研究院副院長(李 海生院長代理)、中国  
住 明正 国立環境研究所理事長、日本  
朴 辰遠 国立環境科学院院長、韓国

2016 年 11 月 2 日 於中国昆明市